

菌関連試験のご提案

～抗菌性確認試験～



長引くコロナ禍の影響により、細菌への関心が定着し始めていることから、抗菌性の確認や細菌数計測のご依頼が増加しています。弊社では様々な菌関連試験に対応しておりますので、この機会に是非一度ご相談下さい。

事例① ハロー試験（繊維製品の抗菌性試験）

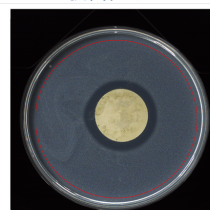
菌を培養したシャーレに紙や液体試料を設置し、試料周辺にハロー域が発生したら抗菌性が認められると判断する試験。（JIS L1902 参照）

試験方法

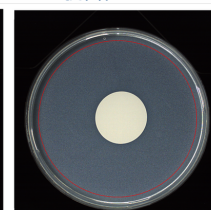
円形、または正方形にカットした抗菌加工繊維製品を試験菌を含む寒天平板培地の中央部に置き、37℃で24～48時間培養します。



抗菌性あり



抗菌性なし



培養後の試料の周囲にハロー（細菌の発育がない透明な部分）があれば「抗菌性あり」と判定します。

事例② 細菌数の経時変化による抗菌性評価試験

個体試料を菌を培養した液に浸け置きにする。24時間など決まった時間で菌数を測定し、菌の数が1/100以下となれば抗菌作用があると判断する試験。（JIS Z2801 参照）

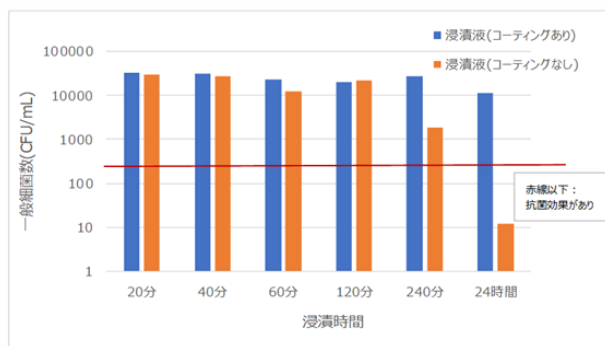


図-1 基盤浸漬による浸漬液中の一般細菌数経時変化(片対数グラフ)



東海テクノでは、自社分析の実績の有無にかかわらず、お客様のご要望に応じて様々な試験に対応しております。

分析に困ったときは、まずは弊社にお問い合わせください。